



「大いちょう」の下に、集い学ぶ ～いちょう大運動会・110歳に向かって～



<R2. 10. 2 撮影>

本校のシンボル「大いちょう」。

昨年8月に大きく剪定しました。名付けて「令和元年の大剪定」です。

前校長の鈴木一尋先生（現東北文教大学講師）は、昨年の創立記念式にて、剪定の意義を4つ述べられ、その後も気にかけられ見守ってこられました。『意義①伸びた枝を整える。意義②実の数を減らして一つ一つのみを大きくする。意義③日当たりと風通しをよくして病気を防ぐ。意義④「新芽」を出させて若返りを図る。剪定は、木の元気を取り戻すためにはなくてはならない作業なのです。』と結ばれています。

230余年の歴史を持つ「大いちょう」は見事に若返り、生き生きと立ち、私たち「いちょうの子」と「いちょうの教職員」を見守ってくれています。誠にうれしい限りです。

実もつけています。この「大いちょう」の下に集い、10／17（土）は「いちょう大運動会」です。



<R2. 4. 27>



<R2. 5. 26>



<R2. 7. 3>



<R2. 9. 30>

